

# 自治会まちづくりミーティング（要旨）

自治会等の名称	鵜沼第2・陵南自治会連合会
日 時	平成26年7月4日（金）19時00分～21時10分
場 所	陵南福祉センター
出 席 者	参加自治会長 29名

## <内容>

○市長あいさつ

○連合会長あいさつ

○総合計画・主要事業 説明

○テーマ概要説明

テーマ①『ウォーキングコース・サイクリングコースの整備』

テーマ②『人口増加と将来を見据えて』

テーマ③『防災公園の整備』

テーマ④『インフラ整備（橋の見直しと狭あい道路の解消）』

テーマ⑤『陵南木曽川公園（仮称）の早期着工』

○懇談

テーマ①『ウォーキングコース・サイクリングコースの整備』

<三ツ池西第2自治会長>

木曽川左岸〔愛知県側〕に負けない、車の進入もなく、眺望がすばらしい、木陰のある等のウォーキングコースの整備を希望しています。高齢化に伴う国民の健康の問題、増大する医療費の解決策はウォーキングです。大勢の市民が笑顔で触れ合える場所の提供が必要と考えます。また、サイクリングコースは、道幅、コースの長さ、安全性の問題等も多くなりますが、ご検討いただきたいと思います。

<市長>

木曽川河川敷には、ウォーキングとサイクリングが楽しむことの出来るサイクリングルートを河川環境楽園から各務原大橋までの区間で国と市が連携して整備しています。特徴としましては、各務原大橋から川島地区を経由して愛知県側への乗り入れ、長距離のサイクリングも可能です。また、木曽川を眺めながら走る部分と河畔林の中を通り抜けるルートが混在し、変化に富んだおもしろいコースと思います。平成26年度は、各務原大橋から各務原浄化センターの区間を新たなルートとして整備する計画を策定中です。また、ライン大橋から犬山橋、鵜沼駅東部第2土地区画整理事業地までの区間に遊歩道を整備する予定でいます。

テーマ②『人口増加と将来を見据えて』

<各務原4丁目西自治会長>

人口増加と将来を自問自答し、考えますとリニア中央新幹線の開業も大きな契機の1つと思います。東京から見て、岐阜県はどこにあると思う方も多くあると思います。リニア中央新幹線

のルートは、名古屋の手前に岐阜県を通ります。ここで県の存在をアピールしていくことが必要になってきます。特に各務原市は県内でも産業的に潤いがあり、交通インフラが非常に整っているこのエリアをどうアピールしてうごかしていくか。特に、名古屋に抜けるにも岐阜に抜けるにも近く、美濃ジャンクションからは北陸にも抜けられ、まさに、日本の中心だと思う。そのストロングポイントを生かし、人をさらに呼び込むことができるのではないか。名古屋がリニア中央新幹線の終点となると、企業の本社機能の移転、関連企業の移転等の可能性は十分に考えられますのでリニアの開業は、人口の増加の起爆剤として充分期待できます。名古屋から30キロ圏内の各務原市は商業圏、経済圏としての意味があり、もっと各務原市をアピールする絶好の機会と思い、近隣市町村、県と連携しアピールしていく必要があると考えます。

<市長>

リニア中央新幹線は、国の新たな大動脈として地域経済をささえ、ゆとりある生活の実現に大きく貢献することが期待されています。岐阜県におきまして、全市町村、観光団体、経済団体が一体となり、岐阜県リニア中央新幹線活用戦略を策定されました。岐阜駅の設置に際し3つの支線で戦略を立ち上げ、1つ目の戦略は、広域的な効果波及を視野に入れていくこと、2つ目は、大都市機能を分担し合うこと、3つ目は、岐阜県の魅力の発信についてということでございます。市といたしましては、現在、観光街づくり戦略、産業振興戦略、基盤整備戦略の部会に所属し、他の自治体のみならずとも具体的な検討をしております。より多くの方が、リニア岐阜駅を利用できる仕掛けが必要と思っています。そういった中での各務原市の街づくりにつきましては、名古屋を念頭においた仕掛け作りも必要と判断しています。先日、愛知、岐阜県ともに国際戦略特区の指定を受け、ものづくり産業を発展させ、交通の利便性がよく、住みやすい環境の整備が一番と思います。昨年実施の市民アンケートでは8割の方から住み易いまちとの評価をいただいております。市では、各務原ブランド戦略ビジョンを策定いたしまして、市の魅力をパッケージにした上で、効果的、戦略的なシティープロモーションを行っていく予定でいます。このような街づくりを進める中で、自治会さんを初め市民の皆様と協力し、夢や目的を共有し、みんなの力で街を作り上げたいと考えています。ご提案いただきましたリニアについては、まさにこれから検討していかなければならないことで、市の方向性についてもじっくりと検証しながら、人口増加と将来を見据えて、人口減少時代にも果敢に挑戦していきたいと思っております。

### テーマ③『防災公園の整備』

<各務原6丁目自治会長>

兵庫県は私の出身地で19年前に震災後、防災に関心を持つようになりました。兵庫県宝塚市には、防災公園と表示された公園があり、災害時の生活空間を確保するエリア、便所の洗浄用エリア、生活水や洗浄用に使用可能な水が流れているエリアが整えられた公園が、市役所の隣に整備されています。そこで、各務原市民公園も災害用の設備を整えた公園にしてはと思います。また、市内にはたくさんの公園が整備されており、各地域にある公園を防災公園として整備できればと考えます。

<市長>

防災公園は都市部におけるオープンスペースを活用した避難場所、活動拠点として位置づけられた公園で、災害対応用マンホールトイレ、生活用水用耐震性貯水槽、太陽光発電設備を備えた

電灯や施設、防災倉庫、ヘリポート等を備えた避難者の収容や消防、自衛隊等の活動拠点となる敷地を備えているようです。各務原市でも市民公園や学びの森を災害時の一時退避場所として位置づけていますが、資機材等は配備していません。資機材につきましては、小学校区ごとに防災備蓄倉庫を配備しておりますが、市民の皆様全員分の備蓄量はございませんので、各家庭での備蓄をお願いしております。

市内には、現在約 180 箇所の都市公園を整備しており、緑が多く休息、運動などの場であるとともに、大規模災害時の避難場所、延焼等の防止機能などを持っており、現在のところ都市公園は一定の防災機能を有していると考えていますが、各務原市にどのような形が必要なのかを検証し、検討していきたいと考えます。

〈各務原6丁目自治会長〉

学校の耐震化は、いつごろ完了しますか。

〈市長〉

校舎の耐震化については、本年度完成します。体育館等々につきましては、建て替え、改築、天井の補強等について、順次整備していきます。

#### テーマ④『インフラ整備（橋の見直しと狭あい道路の解消）』

〈朝日4丁目東自治会長〉

いつ発生するか判らない、南海トラフ大地震等の大規模震災が発生した時に、橋の倒壊により物資等の移動に支障が出る可能性があります。鵜沼地区には大小 61 箇所の橋があり、大体が昭和 40 年代に建設されています。耐震補強、腐食防止等の点検、工事が必要と考えます。ライフラインを守る為にも橋の保全を検証していただきたいと思います。

続きまして狭隘道路の解消についてです。4m以下の狭隘道路は、災害時の人の避難は可能と思いますが、災害物資車両等の通行と人の移動には混雑します。いかにスムーズに避難所に行けるかが課題になります。現在、セットバック計画や都市計画の中で、後退する土地は寄付が前提で工事を市が施工することになっています。寄付が前提では、狭隘道路の解消はなかなか進まない状況ですので、市で土地を買い上げる、借り上げるといった大胆な政策をして、30年以内に発生すると想定されている大規模災害に備える必要があると考えます。

〈市長〉

現在、市が管理している橋梁は、468 橋あり、長寿命化修繕計画に基づきまして、修繕を実施しています。長さ 15m以上の橋梁は 41 橋ありまして、平成 31 年度までに 28 橋補修し、長寿命化していく予定です。

狭あい道路は市内にも非常に多くありますが、制度として運用していなかったことや、全て請願者の負担となっていたことから解消が進まなかったため、平成 23 年 4 月から狭あい道路整備事業を制度化し解消に取り組んでおります。大胆な政策で、買い上げ又は借り上げのお話でしたが、建物の移転補償等も考えますと莫大な費用が必要となり、市行政の出来る範囲では無いと解釈しておりますので、今後も、市民の皆様のご理解をたまわり、ご協力いただけた際は、スピード感をもって対応していきたいと思っております。

#### テーマ⑤『陵南木曾川公園（仮称）の早期着工』

<朝日3丁目自治会長>

国営の木曾三川公園、大伊木南地先の広大な河川敷や隣接する陵南緑地周辺の整備を図り、公園として市民の憩いの場とする、そういう構想を早期に作成し、実現のための一步を踏み出してほしい。新愛岐大橋周辺の河岸地は風景地区でもあり、国営木曾三川公園の一角をなし、風光明媚な景観を有する河川敷や緑地を含み、地域の有用な資産であります。これまでも提案されてきましたが、なかなか着手されておりません。国・県との調整が必要なことは十分わかりますが、周辺住民の希望、要望を酌み取っていただけないかということでございます。

近隣には、住宅も多く子供たちが伸び伸び遊べる場として、また、河川環境楽園からライン大橋周辺までの周遊コース等アイデアはたくさん出てきています。新愛岐大橋の完成により名古屋からの集客が期待でき、道の駅、土産物だとか経済効果も期待できるという背景があり、国営木曾三川管理運営プログラムの29年度以降の次のフレーズに当該地域を盛り込めないか。市とか地元が構想を持って活動し、市の裁量でできることを開始して、国、県へ姿勢を示すことが重要ではないかと考えます。例えば、陵南緑地の地質とか水質調査とか何かできることからやっていただければと提言いたします。住民、自治会は国の基本に沿って積極的に活動したいと思っております。

<市長>

木曾川沿いについては、河川環境楽園からライン大橋の区間は都市計画決定をさせていただいており、国と市のほうで調整しながら、遊歩道、サイクリングロードの整備を進めてきています。遊歩道などとしては陵南地区も含め検討する必要があると考えています。陵南木曾川公園の早期着工につきましては、今後、勤労青少年運動場、各務原浄化センター西側の整備計画の完成後の状況と、木曾川堤防の築堤工事、新愛岐大橋の状況を見ながら国に、要望、調整していきたいと思っております。木曾三川公園建設促進上流域連絡協議会でも、要望していきたいと思っておりますし、整備が計画されれば、パブリックコメント等により、市民の皆さんの声を聞きながら対応していきたいと思っております。

また、陵南地区とその周辺には、住宅地も多く、世帯、人口も非常に多い地区でございます。伊木の森のリニューアルを現在、計画しており、「遊ぼう、学ぼう、楽しもう、伊木山の自然とともに」を基本コンセプトに、家族で楽しむことが出来る施設、子育て世代に優しい施設、伊木山を活用した施設を整備方針として、来年度、工事を予定しています。

最後に、国への要望については、多くの皆様方からいろいろのご意見を拝聴賜り、提言していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。